

綜合的村落調查

甲
田
和
衛



村落社会の研究に部員が「庄」のアプローチではありが、たとえば「農地改革」の村落社会に及ぼした之をどう」という本年度の課題も、がなうすしや調査が企てられより限り実験をまつた吉バでこの課題について語ることが出来なりのは申すまでもなし、二つで、その調査も、一、二の既定の村落の詳細に調査されたりものと、全曰から五十六十の村落を系統的に抽出して是的把握しようとした馬車と呼ばれる馬車とでは、方存りたその結果の載じは異なつたものとなる。一方の馬車が許して庄のようすを調査に対する毎日な想さ

は、その方法のとて問題の如くに、専門として取扱ひ文書の如きが存するに至かつれど、然しこれが由にあつては、印度中同アメリカなどにして容易に企図しよう故に、まさにその故に全国的規模へ、たゞとえば、財事や産業のよくな綜合的情勢調査が企てられたならばと鬼の小るゝことある。せの際、諸科学共同調査の例をあげうるかどうか、その結論は、近時示り廻心を社会学に寄せたりる點、科学の域たゞではなく、その時社会学の具えていた他の諸科学についての教育にかかるつて、るようす用意してならむ。